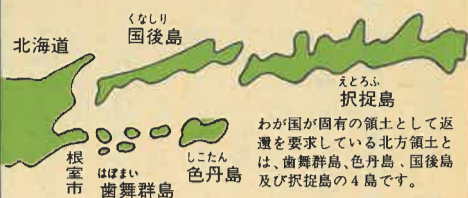




# 県民だより

## 第17回北方領土返還要求のつどい



わが国が固有の領土として返還を要求している北方領土とは、歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の4島です。

- と き 昭和60年11月22日(金)13時から
- ところ 栃木県教育会館大ホール

## 第15号

●昭和60年10月29日発行 ●編集・発行/栃木県企画部広報課 〒320 宇都宮市埜田1丁目1番20号 ☎0286-23-2159  
 ●県人口/1,859,999人 男 920,295人 女 939,704人 ●世帯数 526,260世帯 (昭和60年9月1日現在 概数)



# 新しい総合計画の策定進む とちぎ新時代へ向けての計画づくり

### 「新時代」への道しるべ

県では、新しい総合計画づくりを進めています。今、私達は高齢化、技術革新、国際化等の大きな変化の中に立っています。計画は、これらの変化にこたえ、本県のもつ可能性を生かし、県民の皆さんの力と知恵を集め、希望と活気に満ちた「とちぎ新時代」を築きあげていくための道しるべとなるものです。

### ＝栃木県の発展可能性＝

- 社会の大きな変化に対応し、本県がますます発展していくためには、まず、本県のもつ優れた特性(可能性)を再認識し、これを私達の共有の財産として生かしていくことが大切です。
- 豊かで安全な自然環境▶▶▶美しい景観、豊かな産物、安全な環境を生む本県の自然、それは県民の▶▶▶うるおいと活力の源泉。
- 有利な地理的条件▶▶▶宇都宮テクノポリス、筑波研究学園都市、常陸那珂港などが北関東横断道路等で結ばれ、一体的な力を発揮すれば▶▶▶北関東の時代が出現。
- 受け継がれた歴史と伝統▶▶▶数多くの文化遺産や伝統の技術、これは、本県の▶▶▶新たな発展の土壌。
- 誠実で勤勉な県民性▶▶▶本県の豊かな自然や温暖な気候のもとで育まれてきた誠実・勤勉な県民性、これは▶▶▶新しい時代をひらく力。

走査型電子顕微鏡による組織観察 (県工業技術センター)

# 計画の仕組み

■この計画は、昭和61年度を初年度とし、70年度の長期的展望を踏まえつつ、65年度を目標年次とする5か年計画です。

■内容は、今後の県政を進めるうえでの基本的な方向を示す「総論」と、これを実現するための具体的な事業を体系的に明らかにする「各論」、さらに、各論の事業を地域別に示す「地域整備の方向」、県民の一生の流れに沿って示す「人生80年時代の生活設計のために」で構成します。

■今回は、これらのうち、これまでまとめた総論の大半及び各論で検討中の主要な事業について御紹介します。なお、この計画は、61年2月にできあがる予定です。

## 計画の基本目標

■計画では、「希望と活気にみちた心のふれあうふるさと」とちぎ「づくり」を基本目標に掲げ、その実現のため、次の四本の柱に沿った施策を示すことにしています。

- 一、明日をひらく人づくり
- 二、明るく幸せな社会づくり
- 三、快適で安全な環境づくり
- 四、豊かな生活の基礎づくり

## 目標達成のための基本的考え方

■すぐれた立地条件を生かした先端産業の振興と、恵まれた自然条件を生かした心豊かな生活の場づくり、この二つを基本に、本県の発展可能性を最大限に引き出し、自然と技術の調和した、豊かなふるさと「とちぎ」づくりを進めます。

■県民が、どこに住んでも、豊かで幸せな生活を送れるよう、それぞれの地域の創意と工夫を基本に、県内各地域間のバランスのとれた

# 明日をひらく人づくり

今日のような変化の激しい時代の中で、栃木県の活力を維持し、高め、生きがいのある社会を築いていくためには、人づくりの果たす役割が、ますます大きなものとなっております。

これからは、学校はもとより、多様な学習や文化、スポーツ活動などの充実を図り、私達が生涯を通じて自分自身を磨き、人間性を高め、心のつながりを大切にする学習社会づくりを進めていくことが重要となっております。

## 【検討中の主要な事業】

■生涯学習情報提供・相談機関の整備充実

■各種の学習機会や施設などについて、の諸情報を県民に提供し、学



情報処理教育 (鹿沼東高)

県立美術館

■特色ある学校づくりの推進

時代の進展に対応し、国際理解教育、情報処理教育、映像教育などの特色をもった学校づくり

■情報処理教育センターの整備

情報処理教育に関する研修、調

# 県民の皆さんへ



栃木県知事 渡辺 文雄

栃木県は、豊かな自然、有利な地理的条件、勤勉な県民性など、すぐれた特性を数多く有しています。

私は、こうした特性をできるだけ生かしながら、県民の皆さんとともに、希望と活気にみちた「とちぎ新時代」を築き上げていくため、その道しるべとなる新しい総合計画の策定を進めています。

計画策定に当たっては、広く県民の皆さんの御意見をお聞きし、皆さんが心から理解と共感の得られる計画となるよう、今後とも努力していきたいと思っております。

# 創造

## お願い

★新しい総合計画の策定に関する、県民の皆様のお意見をお待ちしています。手紙又はハガキで、下記までお寄せ下さい。

〒320 宇都宮市埴田1-1-20  
栃木県企画部 企画調整課 行  
(0286-23-2205・2206)

# 明るく、幸せな社会づくり



成人病検診

し、地域住民の主体的、組織的な参加を得た在宅福祉サービスのネットワークを推進

■県総合福祉会館の整備

■地域福祉を総合的に推進するため、福祉を担う人づくりと関係団体等が行う地域福祉活動の拠点として整備

■老人福祉大学校の充実強化

■老人福祉大学校の充実強化

■身体障害医療福祉センター等の充実強化

■障害者スポーツの振興

■県民健康づくり運動の展開

健康づくり定着のためのキャンペーンと栄養・運動・休養を基調とする健康増進対策を実施し、特に、脳卒中日本一の汚名返上に努力

■地域保健医療計画の策定

■衛生研究所・公害研究所の整備

■がんセンターの整備

昭和61年10月オープンを目途に整備

■岡本台病院の整備

■病床数、診療機能等について検討し、県立病院としての機能が十分発揮できるよう整備

■地域中核的病院の整備促進

■血液確保対策の充実

## 【検討中の主要な事業】

■地域福祉の総合的推進

地域の福祉ニーズ等を明らかに

## 本県人口の見通し

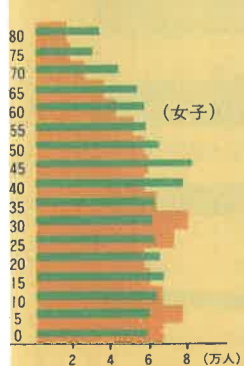
本県の人口は、工業化や都市化が進む中で、42年以來増加を続けています。

人が増えていくものとみられ、将来の人口は、計画の目標年次の65年には、一九三万人、展望年次の70年には、二〇一万人程度に増加するものと予想されています。



身体障害者スポーツ大会

人口構成の比較



習活動の相談に応じる機関を整備  
 ■親子ふれあい活動促進事業の充実  
 ■とちぎ海浜自然の家の整備  
 ■太平洋の海岸の一角を確保し、県民のための宿泊研修施設を整備  
 ■図書館の整備  
 ■65年度までに10館、70年度までに全市町村へ設置を目標として整備を促進  
 ■英語教育の充実（英語指導専事助手の拡充）  
 ■地域ぐるみによる児童生徒指導

生活の場は、住まいを基点として、その広がりを感じようというやさしさを感ずる快適・便利で、安全な場として、効率的に整備されていなければなりません。

## 快適で安全な環境づくり

■県営公園の整備  
 県北、県南、県西の各地域に、特色をもたせた大規模公園を整備  
 ■上水道の整備  
 ■下水道の整備  
 59年度末14・9%の下水道普及率を、65年度25%、70年度35%の目標で整備  
 ■防災センターの整備  
 防災知識の普及の場と防災資機材の備蓄を兼ねた防災センターを整備  
 ■総合通信指令システムの整備  
 ■緑化の推進  
 ■河川の整備  
 ■多目的ダムの建設整備  
 ■地下水保全対策の推進  
 ■新輸送システムの研究  
 新しい都市交通システム、地域航空輸送システムについて、長期的視点に立って研究  
 ■行政情報提供システムの開発検討  
 ■まちづくり推進モデル事業の推進  
 杉並木街道の整備、釜川の周辺環境整備など、個性とつくりをめぐらしたモデル

ラーリー）の整備  
 ■埋蔵文化財調査センターの整備  
 埋蔵文化財に関する総合的な調査研究・指導、遺物の整理・保管・収蔵等のための調査センターを整備  
 ■国際交流事業の充実  
 ■友好関係提携の推進  
 本県における国際交流活動の契機となるよう、中国と友好関係を提携  
 ■コミュニティスポーツ推進市町村の指定  
 ■婦人総合センターの整備  
 総合的機能をもつ拠点として整備



建設進む、下水道処理施設

このため、県では、左のような事業について検討を進めています。

### 【検討中の主要な事業】

■公的機関による宅地供給の推進  
 65年度末までに350ha、70年度末までに715haの宅地を公的機関により供給  
 ■市街地再開発の促進  
 ■北関東横断道路の整備促進  
 ■北関東の総合的な開発に資する北関東横断道路、県内約70kmの整備  
 ■道路の整備  
 ■渡良瀬遊水地国営公園化の促進  
 増大する首都圏のレクリエーション需要に対処するため、渡良瀬遊水地の国営公園化を促進



憩の場—公園の整備—

# とちぎ新時代の扉

これからは、出生数は減っていくものとみられるものの、本県の産業・雇用の可能性が高いこと、良好な住まいの環境に恵まれていることなどにより、本県に移り住む

## 豊かな生活の基礎づくり

希望と活力にみちた社会を築いていくためには、豊かな生活の源となり、また働くことを通じて生きがいを見い出す場としての産業を盛んにすることが必要です。

今後、産業が豊かな創造力と柔軟な適応力を持ち、調和のとれた発展を遂げていくためには、産業界や大学と一体となった先端技術の開発研究、優秀な人材の育成・確保、新たな可能性を生み出す異種なものの組み合わせの活用などを進めることが大切になっていきます。

### 【検討中の主要な事業】

■バイオテクノロジー開発研究の推進  
 新品種の開発、優良種の育成などバイオテクノロジー手法を用いた農業技術の開発研究  
 ■農業情報システムの整備検討  
 ■農業生産運動の展開  
 ■地域特産物の育成  
 それぞれの地域の特性を生かし、地域の顔となる野菜、花き、畜産物などの生産を振興  
 ■農産物マーケティング対策の充実  
 ■イベントの開催などを通じて、本県農産物のイメージアップと消費の拡大を促進  
 ■新間伐促進総合対策事業の推進  
 ■森林整備法人の設立  
 森林所有者ばかりでなく広く都市住民の参加を得て、活力ある森



とちぎビーフピア那須



真岡第2工業団地

■工業技術センターの整備  
 工業技術センターを総合的な機能をもつ試験研究機関として整備し、中小・中堅企業の技術水準の高度化を促進  
 ■常設催事場の整備  
 県産品の展示会をはじめ、各種の催し物が開催できる、多目的な常設の催事場を整備  
 ■商店街の振興  
 ■日光国立公園自然博物館の設置  
 日光国立公園を訪れる人びとへ、自然や文化の情報・知識を提供し、あわせて観光の振興を図るため、自然博物館の設置について検討  
 ■高等産業技術学校の整備  
 ■パートバンクの設置

# IYY国際青年年 ワークキャンプに 参加して



作新学院高等部女子部  
三年 山本 仁美

県内の青年三十一名が、八月十七日から二十七日までの十一日間、フィリピンのタラ村を訪れ、豚小屋造りに村の青年達と共に熱い汗を流した。タラ村は、ハンセン病患者が療養のためその家族と共に移り住んでいる村である。豚の飼育は、タラ村での数少ない仕事のひとつで、経済自立の支えである。今日、援助をする側とそれを受ける側は物質的援助に慣れきってしまっている。そこで私達が実際に、現地に行き、共に働き汗を流すことにより、やる気を失った青年達に精神的援助と互いの精神的な交流を果して帰って来た。

私は、三十一名の一人としてワークキャンプに参加した。現在の豊かな生活に甘えきつて、これがあたりまえだと思っていた。世界中の貧しさにあえいでいる人々や戦争で苦しんでいる人々の事など、作り話なのではないかと疑っていたこともある。しかし実際に自分の目で見た人々は粗末な服を着、粗末な食事を口にしていた。病人は、ビニールマットの上に直接寝かされ、薬も少なく適切な治療を受けている様には見えなかった。確かに現地の人々は貧しかった。しかし日本人よりも恵まれているものを見つけた。それは心。幸せや絆を見通せる透き通った純粋な心。タラの青年は私に自信を持って言った。



現地青年との共同作業

「私達は貧しい。けれど幸せだ。貧しいというのは単に経済的に苦しいのであって、心が貧しいというわけではない。親しい人々の中にいて、幸せを感じる事が出来る。私は淋しくなった。生活や様々な技術の高度成長の中に、私達は何か大切なものを失くしてしまったのではないかと。」

そしてもう一つ。家族と親子の絆である。ハンセン病は、乳児期に感染しやすい。そこで村内には二百名の乳児を収容できる施設がある。しかし実際収容されているのは二十名程度。これでは、子供達に感染してしまい、病気の減少は期待できない。日本では、行政組織もしくは病院側が引き離し、病気が絶滅のため、親子も子がまんなするだろう。しかし、タラ村の青年には、「私には、ハンセン病の父と母がいる。生まれたばかりの兄弟もいる。みんな家族だもの。離れるなんて考えたことはない。」と、簡単に答えられてしまう。ここでは、家族、親

子の絆を強く感じているのだ。価値観の違い。それもあつたかもしれない。無理矢理に引き離すことが良い方法なのか、親子の絆を大切にすることが良い方法なのか、私にはわからない。たとえ感染しても親と子が自然のままに同じ屋根の下で暮らしていく。絆をはっきりと感じている青年達が、何故かうらやましかった。

ワークキャンプの十一日間は、メンバー三十一名にとって本でいえば序論。これから本論を書き綴っていく。一人でも多くの人に伝える為に努力をする。冬休みを利用して、その後を知るためにタラへ帰る人。三十一冊の本を仕上げた。三十一個の鉛筆は飛び出した。私もこれから、自分の為にタラの為にそして世界の苦しむ人々の為に深く考えて行かなくてはならない。ワークキャンプの本題は、今、始まったばかりである。

県内に住む人々の善意の募金により目標五百万円を突破することが出来、無事ワークキャンプは成功しました。実行委員会に携わった約二百名、そしてワークキャンプに参加した三十一名より深く感謝致します。

県政のうごきを写真構成でわかりやすく編集したグラフィ誌「とちぎ」を毎月15日に発行しています。が、購読を希望される方には、一部一八〇円(送料別)で頒布しています。

県民の窓……毎週日一金曜日  
午後0時15分～0時30分  
知事さんこんにちは……毎月第3日曜日  
午前9時15分～9時35分

皆様が日々ご利用される理・美・容院やクリーニング店は、時代の変化とともに、技術も高度化し、利用者のニーズも多様化してきました。しかし、一方では、技術やサービスの内容がまちまちであったり、表示が不統一であったりして、お店選びが難しく、また、苦情やトラブルも発生しています。このため、消費者の方々が安心して利用できるお店を選ぶ際の目安となるよう、Sマークが制定されました。

安心と信頼のSマーク

1、この制度の内容……  
Sマーク表示店は、次のような

ご利用ください  
県政広報誌  
「とちぎ」

ご存知ですか？

生などについての数々の厳しい基準について審査し、これに合格した優良店に掲示してあります。  
※Sマークの意味  
サニテーション(衛生)  
スタンダード(標準)  
セイフティ(安全)

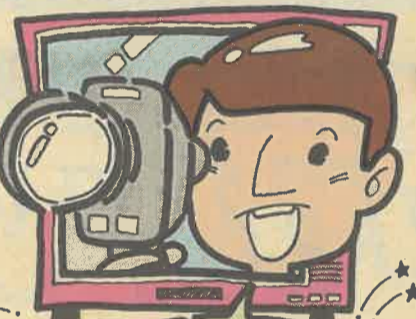
2、Sマークの意義……  
このマークは、厚生大臣の承認を得たマークで、技術、施設、衛生

3、Sマーク表示店になるには……  
Sマークの表示店になろうとするお店は、(財)栃木県環境衛生営業指導センターに登録の申請をしなければなりません。

指導センターでは、申請された営業所について書類調査や実地調査を行ったうえ、審査委員会で審査します。

Sマークについてのお問い合わせは、  
(財)栃木県環境衛生営業指導センター  
〒320 宇都宮市埴田一三二五  
砂川ビル内  
Tel 0286(25)2660

## 県政テレビ番組 カメラ 栃木



●毎週土曜日 朝8:45～9:00  
テレビ東京(12チャンネル)  
リポーター 高松しげお・高浜 洋子

●県の施策や各地のホットな話題をお茶の間にお届けします。

## 県政ラジオ番組 栃木放送

●県民の窓……毎週日一金曜日  
午後0時15分～0時30分  
●知事さんこんにちは……毎月第3日曜日  
午前9時15分～9時35分

### うす塩は誰にもできる健康法……!

〈ためしてみませんかうす塩料理〉

- 白身魚(むきがれい)のレモン蒸し魚(むきがれい)に塩(0.5g)、こしょうをします。アルミ箔に魚をのせ、レモン汁をかけ、軽く包んで蒸器で15分程蒸します。
- 血に盛り生レモンを添えてください。
- 付合せにグリーンポテト粉ふきいもを作り、パセリのみじん切りを振りかければできあがりです。

## あなたの声を県政に!

県では、広く県民の皆さんからの声を聞くため、県民センター、県民相談室を設けています。  
県の仕事への苦情や要望はもとより、日常生活等でお困りのことについても相談に応じています。  
相談は、一切無料です。直接おいでになっても、手紙や電話でも結構です。お気軽にご利用ください。

- 中央県民センター ☎0286-23-3765
  - 県南県民センター ☎0282-24-5665
  - 県北県民センター ☎02872-3-1555
- ※他に上都賀、芳賀、安蘇、足利、塩谷、南那須の各庁舎には、県民相談室が設置されています。